



## 食を五感で味わう週末。



田舎時間企画は、田舎という空間で、農作業を通じて、都会からと田舎からの両方の参加者に交流の場を提供します。都会からの参加者を農作業の労働力としても期待して欲しいです。

普段何気なくやりすくまごしている、食べるという行為、そこに行きつくだの必要なプロセスを、互感で感じとって下さい。食べ物はその間に簡単に作れませんか。自然と御先祖様に感謝して、いろんな努力と工夫と手間をかけた手に入らないのです。普段とは違う日常の中で、自然に囲まれ地域の中で生きる自分を見つめることで、自分が大切にしたいもの、自分が忘れてしまったものが見つかるかもしれません。

日本の田舎はほとんどなくなっていきます。自然は削られ、方言は忘れられ、ちょっとした風習がいつのまにか無くなっていきます。田舎時間企画では、田舎を楽しむだけでなく、田舎の価値を発見し、主張し、守っていきます。

都会に住む多くの人は帰る場所がありません。コクリートと電波に囲まれて生活するしかありません。時間はかかると思いますが、田舎時間企画で提供する場所が、ちょっと帰ってみようかと思える田舎になればいいな、と願っています。

田舎時間代表 貴山 敬



## 田舎時間の理念

田舎で連想する言葉というと、田んぼだったり、ゆったりと流れる時間だったり、おばあちゃんの手料理だったりします。

田舎と都会は違う空間です。田舎には、都会では見られない自然があります。里山、蛙、田んぼ、果樹園、滝など。都会とは違った生活のリズムがあります。雨が降ったら家にいます。収穫の前には台風が来ないようにお祈りします。四季のうつろいを、新芽の息吹で、作物の成長で、肌で感じることもできます。自然や生き物とだけじゃありません。まわりの人との付き合い方が違うのにも驚きません。玄関の鍵をかけない村があります。畑作業を家族みんなでできてきつと御馳走になって、なんとなく出て行ったりします。公民館にはみんななでしよっちゅう集まります。

もちろん、田舎は理想郷ではありません。やっぱり不便利だし、おしゃれなお店はないし、近所付き合いが面倒なときだってあるし、畑作業だっただけでやると楽しいけど、毎日やれと言われたら悩んでしまいます。でも、都会に住む私達が失ったもの、大地から離れてしまっただけでいいじゃないですか。田舎にはあるのじゃないでしょうか。

